

## 市民広聴会「市長と話そう」の記録 ⑤大橋市民センター

### ■開催の概要

日時	令和5年11月5日(日) 15:00~16:20
場所	大橋市民センター
主なテーマ	重点戦略3「多様な働き方が実現できるまちづくり」
参加者数	15人

### ■意見交換の概要(要約)

#### ご意見(ア)

○埼玉県の虐待禁止条例改正案が提出され、もし条例が可決されたら、私達が日頃行っている子ども達への朝のあいさつも、通報の対象となってしまいうようだ。サザン地域支え合い協議会に携わっているが、その中で、南小PTAから登下校の見守りを強化してもらいたいとの要望が出ている。今、我々が取り組んでいるが、協議会のメンバーも高齢となり、十分にできなくなっている。例えば、市内の事業者に応援団のような形で協力をしてもらうとか。そのかわりに、協力事業所の広告を公共の媒体に無料で載せる。あるいは有償ボランティアを確保するなど。市からの支援があれば見守りが強化できるのではないか。魅力あるまちづくりにつながるのではないか。

→ご意見として伺っておく。県の虐待防止条例改正案であるが、もし可決された場合には、県執行部で施行に向けて運用等の内容を検証していくことになり、その過程で懸念されている点についても整理されていくことになると思う。それを踏まえた上で、市として対応していくことになる。

#### ご意見(イ)

○「子どもにやさしいまちづくり」に関して、坂戸市では給食費が無償化されるようだが、鶴ヶ島市は無償化する考えはあるのか。

→基本的には、給食費については、国の法律を踏まえ、一定の負担をいただくことを原則と考えている。昨今の食材費の高騰に対しては、市では給食費の値上げはせず、市費で高騰分を補填している。給食費の無償化については、この点だけの是非ではなく、限られた市の予算の中で、子どもの教育に関して何を優先的に考えるかの問題であり、教育環境の充実の観点から総合的に判断をしている。

○教育環境の充実ということで、例えば教育施設の耐震化等に費用を充てることになるのか。

→基本そのように考えている。本市の教育環境の充実に係る予算は、他市町と比べても見劣りしない水準であり、エアコン等の学校設備の改善、スクールカウンセラーの配置等を進めてきている。

○「いつまでも健康でいられるまちづくり」に関して、鶴ヶ島市ではインフルエンザ予防接種は自己負担があり、他市と比べると不公平と感じる。

→インフルエンザ予防接種は任意接種であり、接種する・しないは各自の判断に委ねられている。また病院によって費用も異なる。このような状況を踏まえ、公費を平等に使っていくという観点から、高齢者等に対して、1,500円の個人負担で予防接種が受けられるよう接種費用の一部を市が負担しているところである。

## ご意見（ウ）

○「多様な働き方が実現できるまちづくり」に関して、圏央鶴ヶ島 I C 周辺では、どのような企業の誘致を考えているのか。

→ I C 周辺ということで、通常は物流系企業が多くなると思うが、なるべく雇用を生み出す企業、若い人が地元で働けるような企業を誘致していきたいと思っている。農業大学校跡地には、I H I の他に 4 社が進出する。それぞれ製造業であり、1,300 人程度の雇用が創出される予定である。冷凍倉庫でも多くの雇用につながると見込んでいる。本市としては、新たに生まれる雇用に対して、なるべく市民を採用してもらえよう働きかけていく。

○ I C の周辺では、県事業であるロボティクスセンターの計画があるが、どのようになっているか。

→ロボティクスセンターは県事業で約 12ha の規模である。先端産業・次世代産業の研究機関や企業の集積とともに、A I や I o T 等の先進技術を活用した実証実験を進める場所として整備していく計画である。また中小企業を対象に、研究や実験の場を提供することも目的としている。今年度を実施計画を策定し、令和 8 年度中の開設に向けて進めている。具体的な施設としては、イノベーションセンター、実験棟、貸共同スペース、実験スペース、ドローン飛行場等を計画している。

## ご意見（エ）

○高齢になるにつれ、病院通いが増え、坂戸市や川越市まで出かけている。企業誘致も大事だが、総合的な病院ができるとよい。大きな病院は関越病院しかない。

→本市は、近隣を含めて救急センター等の医療機関は恵まれている。一方で日常の医療機関は少ないことから、その利便を高めるため、つるバス・つるワゴンの運行数を増やすなどで対応している。診療所については、毎年 1 件ずつ増えている状況にある。引き続き本市としては医療機関の立地を働きかけていくが、医療機関の配置の方針もあり、また他市との競争も厳しく、なかなか難しい状況にある。

## ご意見（オ）

○この総合計画は 10 年計画とあるが、市長の任期中は、変わらないということか。市長が変わると変更されるものなのか。

→「しあわせ共感 安心のまち つるがしま」を将来像として取組を進めているが、この将来像は、期限を決めて達成するものではなく、また取り組む範囲を決めて進めるものでもない。継続的に続くまちづくりのテーマであると考えている。3 つの戦略は、本市の主要なまちづくりの取組が網羅的に当てはまるように設定している。市長に就任した際、第 5 次の計画がほぼ達成されていたので、第 6 次総合計画を策定した。市長によっては、新たな方向を示すこともあると思う。

○地元で雇用を確保しておくことも重要だが、デジタル化が進み、どこでも働ける状況にもなってきて中で、鶴ヶ島市に暮らしてよかったと思えるまちにしていくことがより重要だと思う。

→3 つの戦略は、子育て世代、高齢世代、勤労世代の全方向で展開していく内容である。これらの取組により、本市に暮らしていてよかったと実感してもらえるようにしていきたい。地域それぞれの特性を生かしながら、子ども、高齢者、働く世代のそれぞれが満足できるように取り組んでいく。市長となり 6 年が過ぎ、本市のまちづくりも相乗効果が出てきたように思っている。皆さんの意見を伺いながら今後も進めていきたい。

## ご意見（カ）

○市として情報発信の考え方が弱いように感じる。全世代に向けてということであるが、働く世代にはあまり届いていない。子育て世代にもっと熱量を感じるような取組をしてもらいたい。学校関連ならアプリで情報を流すなど、届くよう発信してもらいたい。

→努力していききたいと思う。

## ご意見（キ）

○世代によって幸せ共感の切実感がだいぶ異なる中で、それを一括にやることは難しいと思う。市民はスポットが当たったニュース、例えば給食費無償化などを見て、市が遅れているような印象を持ってしまいがちで、マスコミの報道に大きく左右されている面がある。その点では、行政から、鶴ヶ島市はこういう所である、こういう考えであるということを手早くアピールしていく、イメージ戦略が大切だと思う。学校評議会に参加している中で、本市の学校は、地域と連携しながら、きめ細かい教育を実施していると思う。各世代が接点を持つことが大事だと思う。若い世代との接点ということでは、SNS等を活用していくことも必要だろう。市の窓口では、できるだけ市民の話を職員がよく聞いてもらいたい。細かいところは、直接人間が対応する必要があると思う。そのために窓口のカウンターを無くすあるいは低くする等して、壁を取り払ってもらいたいと思う。そこから人にやさしい行政になるのではないかなと思う。

→情報発信については、様々な媒体で取り組んでいるが、見ない人も多い。市公式アプリ「つるポッケ」では、防災無線、災害情報を最低限の情報として発信しているので、これは見てほしい。情報を見ない人に対してどうアプローチしていくかが大きな課題である。窓口カウンターは、10年ぐらい前に一度低くしている。貴重なご意見として伺っておく。

## ご意見（ク）

○市街地の中には街灯のない暗い道が多いので街灯の設置をお願いしたい。空き家等を活用してシェアオフィスを整備して起業支援を進めてもらいたい。総合計画の指標で「再就職女性数」の平成31年度実績がゼロとなっているがどういう意味なのか。市職員の「男性の育休取得率」はゼロが続いているが、どのように取り組んでいるのか。市内で若い人が就農したいと思った場合、農地を取得することが難しいと聞く。そのハードルを下げることはできないか。市役所6階の食堂跡地を活用してシェアキッチンを整備できないか。キッチンカーに取り組む人が増えているが、厨房がないのが大変だと聞く。飲食業での起業を考えている人の支援になると思う。

→シェアキッチンについては、以前に市で店舗を借上げ貸出す事業を実施したが、商売として上手くいかなかった面がある。再就職した女性の人数は、本市の講座に参加した人に対する人数である。直近では7人の実績となっている。

→市の男性職員の育休取得に関しては、男女共同参画推進プランにおいて令和8年度の目標値を10%としており、実績としては着実に伸びてきている。育休の取得については、各自が収入面等も含めていろいろと考慮した上で、取得の可否を判断しているものであるが、引き続き、制度の周知に努めていく。

→新規就農に関しては、法令による規制の部分が大きいので、誰でもよいとはならない面があるが、門戸

は広がっており、他市と比べて特に新規就農が難しい状況ではないと考えている。

#### ご意見（ケ）

- 行政サービスも広がっており、それらの全てを行政が担えるものでもなくなってきている。市民も一緒に考え、検討していくしかないと思う。制度を作って終わりという時代ではない。最も大切なのは人で、一つ一つ気持ちよくコミュニケーションをとっていくことが大事である。
- 行政サービスが多様化する中で、市職員が市民一人ひとりに対応していくことが大事だと考えている。一方で、職員数を減らし一層の合理化・効率化を求められている面もある。市民の皆さんと共助の地域づくりを進めていくことができれば、本市としても多方面にまちづくりを進めていくことができると思っている。

#### ご意見（コ）

- 若い世代の情報のやり取りはLINE、SNSなど、楽しいところに集まってくる。鶴ヶ島市に引っ越す前に暮らしていた浦添市では、ティックトックで情報発信をしていた。若い人に向けた情報発信を検討してもらいたい。
- 本市でもLINEやフェイスブックや、X（旧 Twitter）などを活用している。

#### ご意見（サ）

- 若い人も、今回の広聴会を通じて、共感を得た部分はあると思う。このような機会が続いていくとよいと思う。重点戦略が、鶴ヶ島市の魅力を高め、住み続けられるための戦略ということで理解した。市民の細かな意見が反映されていけばよいと思う。今回は有意義な機会だったと思う。
- ご意見として何う。